midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

１月号の１枚：Forest Novaの伐倒

［巻頭言］　森林・林業再生プランⅡ、考察：交わされる議論

財団法人・金原明善治山治水財団を見学させて頂いた

平成21年12月に公表された「森林・林業再生プラン」は、過去に様々な論議を繰り返した結果だが公表後、林学者を主とする多数の意見が様々な論議がされており、NPOにはとても咀嚼・検証できない。そういう状況の中で当会の学生連合フォレストノバの森林活動を通して就職した若者のいる静岡・天竜の「財団法人・金原明善治山治水財団」を見学させて頂く機会を得た。

現・金原理事長は、パワーポイントによる財団の歴史・経営方針及び、経営の現状と問題点と対策を簡潔明快に説明して下さった。その後、車でのご案内は、空車では走らせない林道の仕組みなど、系列の山林・製材所・加工所・付帯施設・製品展示場（浜松駅ビル内）に至るまで「生産～製材・加工～流通・販売」の仕組みは一貫して最短距離、全てに合理的な思想・手法が徹底されている。車中、原価低減・利益向上の途は、まだまだいくらでもあると数値を明示して指導して下さった。経営の主力は出口・販売に置いているが、ほとんど受注生産で、製品はあくまで施主の要望が優先で良材なら外材も積極的に扱われている。写真撮影も全てご自由にどうぞという事で、従業員の方々の希望にあふれる明るい勤務態度が強烈に印象に残った。

ここには議論より、現場の細部を検証しながら、飽くなき改善追求の姿があった。例えば、乾燥機の様々な改良工夫、桟積・板材の天然乾燥の仕方にも、細かな改良が現場職員の手で日々、繰り返されている。技術研究や林政論議は重要だが、やはり現場での実践・検証が決め手になるのではないか。往路・帰路、終日のご案内で浜松駅ビル内の製品展示場では、金原理事から「手伝うことがあったら何でも申し出て欲しい」と言う大きい一言を頂いた。大衆・市民運動NPO／当会が、こんな事にも取り組める今の時代がありがたい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.01

小原本陣の森（第一日曜日）：
森のしきたりにより、１月は活動を行いません。

1月20日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

12月2日（第一日曜日）

12月に入り、季節もいよいよ冬になってきました。森も紅葉が終わり、落葉した木を見ると冬を感じます。

今回の小原定例活動では首都大学東京の環境サークル“Nature（ナチュール)”から4名参加がありました。Natureは色々な環境問題を知って、それを伝えるだけでなく、実際に現地に行って何が問題なのか、その問題を解決するためにどんな作業を行っているのかを見て、自分たちには何ができるのか、その問題を解決するためにはどうしていかなければいけないのかを考え、実行していく団体です。今年発足したばかりなので、ぜひForest Nova☆がどんな活動を行っているのかを見てみたいということでした。

今回はそのNatureのメンバーとForest Nova☆のメンバーと合わせて計12人で径路づくりと、材加工を行いました。

材加工は、基地周辺に積んである、以前間伐を行った2メートルほどに切ってある丸太を、アラスカンを使用して半割りにしていき、それをさらに板にしていく作業を行いました。毎月この作業を行っていくうちに、ようやくこの作業に慣れてきたようで、準備や作業、そしてチェーンソーの整備も手早くなおかつ丁寧にできるようになってきました。この作業でできた板は、嵐山にあるカブトムシ牧場の材料になるそうです。カブトムシ牧場には、先日、桂北小学校の子供たちも来てくれ、カブトムシと触れ合ってくれて、大変楽しんでくれたこともあり、とてもワクワクしながらの活動となりました。

径路づくりは、3グループに分かれてそれぞれ間伐を行い、その木を使って経路づくりを行いました。この日はみんなテキパキと動くことができ、大幅に進めることができました。もうすぐ、山頂を通るハイキングコースに繋がるということで、こちらも非常にワクワクしながら、なおかつ楽しみながら活動することができました。

活動後は、Forest Nova☆とNatureメンバー全員で小原の町内会長の小林さんをはじめとした小原の方々に、小原で採れた野菜を使った鍋をごちそうになりました。その中で、来年の小原本陣祭の話や、小原地域の歴史の話などいろいろな話を聞き、話すことができました。

最後に、この活動の帰りにForest Nova☆の活動の初参加してくれたNatureの皆さんが、「こんなに活動している地域の人とお互い感謝しながら活動できるのはすごい！」と言っていました。改めて考えてみると、この活動はとてもすごい活動をしているんだと感じさせられました。

これからも、活動にかかわってくれる人に感謝しながら、地道に活動をつづけていこうと思います。

瀬戸　智大（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

12月16日（第三日曜日）

本年最後の活動日は朝からすっきりとした晴天だ。今日はフォレストノバの呼びかけで様々な大学の生徒さん達の森林案内を行うことになっているので有り難い。先月嵐山で採れたキノコを持ち帰った面々も全員顔をそろえている。まずはほっとひと安心。やっぱりあれはナメコだったか。それとも毒キノコでなかっただけか。

朝礼時、体験学校長・斎藤さんが第２カブトムシ牧場をつくる人手を募集する。これにはさっそく丸茂さん率いるお花畑班の精鋭たちが加わった。この牧場で発酵・熟成された落ち葉の堆肥はいずれお花畑に投入される。だから、協力しない訳にはいかないのだ。

私はといえば、予定通り１３名の若者達と森林散策。「何故モミが尾根筋に列をつくって生えているのか？」「この森は放っておくといつかは常緑広葉樹林になってしまうかも」等々、東大や東京農大の優秀な学生を前にちょっと偉そうに蘊蓄を

たれる。ここに集まる学生は皆熱心に話を聴いてくれるが、おじさんの理屈ばかりじゃやって来た甲斐がない。せっかくだから天辺まで登ろうよ！

思った通り、いやそれ以上というべきか。山頂では胸のすくような展望が待っていた。眼下に相模湖の青い湖面、南西には西丹沢の大室山、道志山塊を従えた富士、西には滝子山から破魔射場丸、大蔵高丸、黒岳へと次第に高まる南大菩薩の連なり。そしてその左、笹子峠の向こうにわずかに姿を覗かせる白い塊。あれは絶対南アルプス。それにしても、こんな展望は何年ぶりだろう。学生たちも満足、私も大満足。カメラを前に「はい、チーズ」。

昼食にはいつものようにかどや特製の具沢山スープが待っていた。湯気と煙が立ち上るなんとものどかな光景である。その後、高井戸中は間伐作業へ。「なみすけの森」は以前に比べずいぶんと明るくなり、下層植生も豊かになっている。今日の間伐で森はさらに立派になっていくに違いない。それにしても伐った本数が何と１１本とは。中学生パワー、恐るべし。

一方、フォレストノバも先ほどの学生たちと合流し、ノバの森で間伐体験。午前中に選んでおいた木を２本伐り倒す予定だったが、運悪く２本目が掛かり木になってしまった。あれっ、先月も同じパターンだったような…。川田さんらの協力を得て暗くなるまで悪戦苦闘したものの、木は一向にいうことを聞いてくれない。幸い安全に問題はなさそうなので、残りの作業は来年へ持ち越すことに。

ところで「第２牧場」の方は？杭を打ち、枠をはめ、集めたクリの落ち葉を重ねた上に米糠をふり撒いて発酵をうながす。大の男数人がかりで丸一日、ようやく完成に漕ぎつけたこの牧場。これは牧場というよりは御殿である。ぜいたくなカブトムシだこと。

終礼後には石村夫妻合作のお汁粉が振る舞われた。これが本日、本年の締め。日が傾くにつれ寒さが増す中、参加者はきっと身も心も温まって帰路についたことだろう。いつもながら夫妻の細やかな心遣いには感謝！

来年もよい年となりますように。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

11月3日は、かねてより進めている、平塚市より受託した森林調査の最終ステージ、樹木医でもある山本さんを講師に招いて、木の健康診断をしてもらうという予定です。

これまでに、浅間山地域、中央地域、ヤブラン平地域の三地域で直径10cm以上の樹木調査を実施、合計144本の樹木を識別し、番号札を付け、胸高周囲、高さ、 位置情報、樹木の現況等を調べてきました。
その結果サクラが半数以上を占め、その殆どがテグス病に罹ったり、部分的に枯死していたりと劣勢であることが判明しています。

サクラを中心にそれぞれの健康状態と今後必要な処置について、専門家のアドバイスをもらうのがこの日の調査の目的でした。

さすが専門家、山本さんは木槌で幹を叩いて空洞の有無を、針金を割れ目に挿して幹内の腐朽状況を、さらに寄生しているキノコなどを調査し、サクラの健康状態を調査してゆきました。

私たちが当初思っていたより厳しい判定が続出、77本のサクラの半数以上の51本について、伐採すべきあるいは伐採した方が良いという判定で、残りの26本についても健全と判断されたものは皆無という惨憺たる結果でした。

この原因として、園芸種であるソメイヨシノは植林後も施肥や枝切り等の手入れが必要なのに、一切そのようなアフターケアがなされておらず、また陽樹であるサクラが必ずしも日当たりのよい場所に植樹されている訳でないという点が指摘されました。

この調査結果を踏まえて、平塚市に提出する報告書を仕上げてゆくつもりです。

9日はいつもの３地域に分かれて下草刈りを実施しました。浅間山の北斜面のいつもは行かない西側下部は思ったよりアオキと笹が成長していて、刈り甲斐があります。
突然目の前に赤い実を付けた背丈ほどの灌木に出会いました。なんと、ミヤマガマズミではありませんか！！

太さは手の指ほど、いつの間にかこんなところに育っていたのです。ということは、６年前から続けていた我らの草刈りが功を奏して、埋没していた種からこんな立派なガマズミに育ったに相違ありません。付近を見ると、ケヤキやコナラの実生も散見されます。あまり日当たりの良くないこの付近は、雑草があまりはびこっておらず、これらの成長 に適していたのかもしれません。

条件さえそろえば、 森の持つ自己回復作用が密かに進行することを、今日の作業で発見でき、感動を覚えました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告

11月30日

今回、私たちForestNova☆は桂北小学校の中田先生からお誘いをいただき、桂北小学校の１～４年生を対象とし、道徳の時間を使って「カブトムシの飼い方教室」を開催させていただけることになりました。場所は嵐山を使い、カブトムシ牧場の斎藤さんのご厚意で飼い方の説明が終わったらカブトムシ牧場のカブトムシの幼虫を１人１匹ずつ配ることになりました。参加人数は小学生６１人、先生５人、ForestNova☆５人で行いました。

当日、子どもたちはとても楽しみにしていたらしく、嵐山まで楽しそうに向かっている様子が見られました。子どもたちが嵐山に到着した後１・４年生と２・３年生の２つのグループに分かれて説明を行いました。説明では、事前に私たちが作成したしおりを拡大印刷したパネルと、カブトムシの写真を用いました。子どもたちは寒いのにも関わらず興味深々で静かにきいてくれて、２・３年生のグループはみんな立ち上がって食いつくように説明を聞いていました。説明後設けた質問コーナーでは、子どもたちが沢山質問してくれて大賑わいでした。
その後、１・４年生から順番にカブトムシ牧場のカブトムシの幼虫を採る作業に移りました。作業前は少し嫌がる子どももいましたが、作業をしていくうちに段々と楽しくなってきたようで、笑顔が見られました。幼虫に直接触れなかった子どもも、あらかじめ学校で用意してきた容器に入れると「土にもぐらないよ」など心配そうに観察していたり、大事そうに扱ってくれました。など心配そうに観察していたり、大事そうに扱ってくれました。片方のグループが幼虫採りをしている間、もう片方のグループは嵐山の自然の中で遊んで待っていてもらいました。鬼ごっこをしたり、だるまさんが転んだをしたり、去年桂北小学校の４年生の授業で作ったブランコで遊んだりしていて、とても楽しそうにしていました。そして、説明・幼虫採りが終わって集合写真を撮り終わり、嵐山を下山しました。

その後、６時間目の授業と帰りの会に参加させていただき、その時間を使ってしおりを配りその説明をしました。その時も質問は飛び交い、４年生の教室は６時間目の授業の時間全てを使ってしまう程でした。しおりも子どもたちが気に入ってくれて、荷物をまとめたあとなのに持って帰りたいと言ってくれる子どもまでいました。

全てが終わると子どもたちも私たちに親しみを持ってくれて、沢山話しかけてくれてとても嬉しかったです。また、機会があれば是非やりたいです。

芦田　梢（ Forest Nova）

[コラム]「森の話」第6回 花の形、その仕組み(2) 多方位外交と限定外交

ちょっと妙な副題です。近頃、外交上の問題が世間を騒がせていて穏やかではありませんが、ここでは花と虫との親密な関係のこと。

春から秋にかけ嵐山でも様々な花が咲き揃います。中でも夏のシシウド（写真）は他の草本に比べ図抜けて大きいので目立ちます。この花は小さな白花が多数集まってひとつのまとまり（花序）をつくり、さらにそのまとまりが複数集まった複散形花序というセリ科独特の花序を形づくります。夜空に花火を打ち上げたような姿といったら解りやすいかもしれません。

このタイプの花はそれほど平面的ではないものの小さな花が密につくため飛翔能力に劣る甲虫類、例えばハナカミキリやハナムグリの仲間でもやすやすと着陸できます。また、花に潜り込む性質を持たないハナアブにも楽に蜜や花粉を舐めとることのできるつくりにもなっています。多くの種類の昆虫たちを呼び寄せ、花粉を運んでもらうこのタイプの花は、いってみれば多方位外交の花といってよいでしょう。

一方、そうでないタイプの花もあります。前回紹介したツリフネソウを初め、猛毒で知られるトリカブトや筒状の花を下向きに吊り下げるホタルブクロ。これらの花は花粉の運び相手をマルハナバチの仲間に限定しています。というのも、横向きにせよ下向きにせよ筒状をした花は飛翔能力の劣る甲虫類や翅の大きな蝶の仲間を排除し、飛翔能力に優れ花に潜り込むことに長けたマルハナバチにのみ花粉や蜜を提供するようにできています。これを限定外交の花と私は勝手に呼んでいます。

ところで多方位外交と限定外交ですが、果たしてどちらが子孫を残す、いいかえれば種子をつくる上で有利なのでしょう？　一見、多くの昆虫を集める多方位外交の方がよさそうに思えますが、これらの昆虫は気まぐれで色々な花を訪れます。受粉効率といった点ではやや難がありそうです。限定外交の方は社会性があり、そこに蜜

があるとなれば仲間を呼び、頻繁に花を訪れるマルハナバチを相手にしているので、受粉効率は高まります。実際、マルハナバチを送粉者に選んでいる花は数多く、この昆虫は生態系の中で非常に重要な位置を占めているといってよいでしょう。

では、どちらに軍配があがるか。これは一概にいえることではなさそうです。何故なら、どちらのタイプの植物も気の遠くなるような永い歳月、進化の過程を経て現在まで生き延びてきているのですから。植物たちは様々に工夫を凝らし、子孫を残そうとしています。路傍に咲くひっそりと目立たない花でさえ、いい加減にできているものは何ひとつとしてないということをつくづく感じるこの頃です。

内野　郁夫（本会、理事）

会員コーナー

●本会のNPO法人登録10周年を記念して会員のコーナーを開設しました。
皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●来月号から会費を納入いただいた方のお名前をこのスペースにてご紹介してはどうかと経営運営会議で検討しています。
お名前の掲載を辞退される方、またニックネーム等での掲載も可能です。
会員コーナー専用メールアドレスまでご一報ください。

掲載例：正会員、石村黄仁（東京都）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版